

令和4年11月25日

鈴木委員

私からは数点。まずは、今、課長さんの答弁を聞いていてちょっと二、三気になることがあった。

第1点は、今後、来年の1月以降は返済に向けて全力を挙げると。また、経営改善に向けた努力をしていくというような目標を掲げていらっしゃる。この今回の保証料ゼロによる原油高騰対策特別融資というのがあるけれども、そもそも、あなた方は来年の1月以降の経済というのがどのようになっていると見ていらっしゃるのか。

金融課長

現状、長期化するコロナ禍、そして原油・原材料の高騰、先行きが見通せない状況は、引き続き来年度以降も続くものと見込んでございます。

鈴木委員

そんな簡単なこと、俺も言えるから。そうじゃなくて、要するにあなた方がこういう中でもって、答弁をあなたがして、先ほども改善させるんだというふうになってくると、あなたの答弁と現場というのは、先ほど部長は年末までだと、そうしたら私たち質疑も何もないんだけど、貸したお金は返してもらわなきゃならない。そうすると、これから先、来年どのようにしていくんですかというようなことは当然あってもいいはずだよ。あなた方の9月補正のその2を見てみると3つあって、まず一つは原油高騰について幾ら、コロナの新事業展開対策特別融資というのはいくら、伴走支援型特別融資の3つを入れているんだよね。ところが、あなた方はこの総括の中で、とても申込みが多いと、これは当たり前だと思ったね。何でなのかというと、そもそもがこんなコロナと伴走型というのは、これ課長さんに単刀直入に聞くけれども、こんな難しいことできるぐらいなら経済もっと回るんじゃない。だって、この中で、まず行動計画を出せと。なおかつもう一丁、新事業展開のほうに至っては、具体的にもっと詳細な改善計画を出せて書いてあるんだよ。そんなのできるぐらいなら融資を受けないんじゃないの。常識で考えてみな。今一番しんどいんだと。先ほどからあなた方、答弁を平気でしていらっしゃるけれども、私は本当に大変だと思いますよ。大企業がこれだけ潤う、潤うんじゃないで、在庫を全部中小企業に持たせている。こういう状況とか、原材料を入れて、それを加工するサービス料が上がらないんだよ。構造的なものがある中で、あなた方が平気でこういうものを現場に投げるという感覚が本当に分からないんだ。なおかつ、片やこのような形でもって足りませんって言って出てきて、原油高騰に対してはこれだけの申込みは当たり前だ。足りないから出してくれっていうのに出すんだったら、みんな出すだろうよ。俺が言っていることは違うかい。どう思います、課長。

金融課長

2つの融資メニューを保証料ゼロでやらせていただいておりますけれども、やはり計画書をつくるという意味では、各事業者様の御負担をかけるかと承知

しております。ただ、その計画書の作成に当たりましては、神奈川産業振興センターの経営支援を行わせていただいておりますので、お手間をおかけいたしますが、きちんと計画を立てていただいたり、経営改善にどうつなげていくかということをしつかりと取り組んでいただくのが、一つ融資の目標でございます。また、融資実績につきましても、原油・原材料の保証料ゼロが始まる以前は、この2つがうちの融資メニューではよく利用されていた融資でございまして、平均いたしますと月100件ほど利用があったものでございます。

鈴木委員

課長、そんなことを聞いているんじゃないんだよ。要するに、計画書を出してくれというのは、今、大変なんですと。それも理由が2つ大体決められた中でどうしようもないじゃないですかと。そういう人に業態を変えろ、また計画書をこのように改善しろって言うのは、それはあまりに酷なんじゃないの。その現場の声がこのような形で高騰対策のほうへ行っているんじゃないですかって聞いているんだよ。あまりだったらと関係ない答弁しないでよ。どう思うのかって言っているのよ、今後、来年に向けて。これ、本当に来年になったら、あなた方、これだけ貸付けしたけれども実際に返済の努力だ、経営改善をさせるなんていうようなことが簡単にできるような状況なのか。あなた方は平気で答弁しているけれども。具体的にふっとプラスとマイナスとやるようなこと、逆に私は議会で追及するぜ。だって、貸すのは誰でも貸せるだろうよ。私だってこんな質問をしたくないよ。今、苦しんでいるんだ、現場は。だけれども、貸したお金は返さなきゃならないという状況が、今メディアでも出始めているでしょうと私は言っているんだよ。それを何もしないで、いきなり31億出してくださいねというようなことはあまりに稚拙じゃないかと、今までのあなた方がやってきたことに対して。前回も言ったけれども、そもそも10月時点においてもこういうことは出てきてしかるべきだっただろう。こういうのを出せば、もっともっと借りやすいメニューがどんどん出てきたら、そこへみんな行っちゃうだろうよ。だから私は言っているんだよ、あなた方のその安易な姿勢を。原油高騰対策とか出ているけれども、そうじゃなくて、今までのものが面倒くさいからそちらのほうで借りられるんだったら借りようというような、経営者のマインドになってもおかしくないと思うよ。これをどういうふうにあなた方は捉えているの。肝腎な問題だよ、今日のこれ。31億、私は反対しませんよ。しないけれども、あなた方のこういう姿勢がいつまでも続くと、一体どこにあなた方の視点をやって、貸したものは返してもらおうという姿勢はどこにあるんだと。書いてないじゃないどこにもそんなこと。だけれどもあなた方2人の答弁を聞けば、これから経営改善してもらいます、返済努力します、そんなの当たり前なことだよ。でもその責任を誰が取るんだよ。局長か。明確にしてよ。こういうようなやったことに対する、具体的な返済に対する詳細を近々に出して。どのようにするのか、計画書。おかしいだろう、だって、貸したお金に対してそれをどう返すのかというような計画もないで、これ通してくださいなんて、ばかなこと言っていられないだろう、常識で考えてさ。議会だからこれでいいよ。一般の企業だったら大変なことになっているよ、これ。私が言っていることはおかしいか、中小企業部長、どうですか。

中小企業部長

中小企業さんは今後のために返していかなきゃいけないというところがあります。我々はいろんなメニューを用意して、今回のこの融資については、もうどうしてもキャッシュが減っていく、この現状の中で緊急的に赤字補填的なものを入れるというメニューでございます。我々はほかにも経営改善という、本当に支援機関と一緒にになって経営改善しながら、金融機関と一緒にになって経営改善しながら、稼ぐ力をつけようというもの、そういったメニューも設けています。今後の想定される中では、やはり先ほど先行会派で答弁させていただきましたけれども、残念ながら返済が滞ってしまうケースというのものもあるかと思えます。今後の一つの我々の課題なんですけれども、やはりいきなり条件変更になってしまう、もしくはいきなり代位返済にならないように、もしも借換えをうまく利用して、そして返済負担を軽減できるような仕組み、ここを何とか我々としても支援していかなきゃいけないと思っています。そういったことで、月々返済を軽くしながら返済を続けていく、こんな仕組みで企業さんを支援する、そういったところも今後バックアップしていく必要があるんだろうなというふうなことは考えております。今後、そういった視点でも検討していくところでございます。

鈴木委員

ぜひとも局長はじめ幹部の方々さ、今後のことでもあるんだから、これまだ来年も続くと思うよ。来年は私が産業労働常任委員会にいるかどうか分からないからさ、残しておかなきゃならないものだと思うから、中小企業部長もひっくるめてもう一度具体的に考えなさいよ。これは大事なことだよ。

意見発表

鈴木委員

私からは4点。第1点は、前回お話ししたけれども、最初の資料が時系列だけであったと。議会に臨む姿勢はいかがなものなのかと。しっかりとした今回のような分析したものを、本来そのときから出してもらいたかった。議会に対する一つ一つのやはりそういう資料作り、また、詳細な議論の場を与えるというような資料作りを、第1点お願いしたい。

第2点目は、今回の場合、横浜市の資金がなくなったからというような理由があったと。課長さんにも私は申し上げたけれども、そういうようなことでいいのかと。本当に市町村等々との連携はどうなっているんですかと。そもそもがやはり、県として広域自治体と言っている中で、要するに県の姿勢がいかがなものかと私はすごく思いました。今後、もう一度やはりレビューしていただいて、市町村とのしっかりとしたつながり、また、ある意味で融資等々についても、しっかりとしたそういう規律みたいなものを設けた対応をしなきゃいけない。必要だから出してください。それはないだろうというようなことが2つ目。

3つ目には、今日の中で部長にも申し上げましたけれども、一つはやはり来年度に向けて、来年の1月からどのような方向になっているかというグラフは出ているけれども、逆にどれぐらい回収できないものなのかなという見込みは、ある意味でこの銀行やひっくるめた機関の方たちだって、分からないはずはないと私は思うんです、ある程度方向性として。そういうところに対しての施策というようなものを、きちっとしなきゃならない。要は、入りと出というようなものをきちんと分析したのもでもって、こういうようなものを今後出すべきじゃないのかということが3つ目。

4つ目は、最後に申し上げましたけれども、今これから融資とは言っても、基本的に来年に向けて伴走型とコロナ新事業展開対策融資というようなものがある。どう見たって、今の時点でもって原因は申し上げたけれども、こういう理由でもって資金がショートしているという状況から見たならば、今さらこういうようなものを出してどうなのかというようなものが、全部ある意味で原油等々の高騰という、今回皆さん方が出したものに流れていったんじゃないのかと。そうすると、この現場というようなものを、もう一度やはり掌握する必要があるんじゃないですか。それによって、やはり融資の在り方、また、皆さん方から簡単にこういう形でこういうようなことでもって出してくださいと言っても、現場は本当に今すぐどうなのかという状況下の中で、私の言っていることと、ある意味でまた現場の中でもって、本当にこういうような一々面倒くさいようなこと出すことはできませんよというような方たちが流れることがあっちゃならないということで、そこの見極めをしっかりとさせていただきたいという4点をお願い申し上げまして、公明党として議案に賛成いたします。